

科目名 Course Name	生活支援技術V Independent Living Skills V				ナンバリング No.	J2-008	
年次	1年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	久保 由佳						
連絡方法	C-Learning で対応。または福祉棟 2F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程必修)						
関連 DP	DP2, DP5						
授業の概要と到達目標	<p>疾病や事故に起因する運動機能障害の特性を中心に、個々の具体的な生活障害を理解し、介護における基本的な視点や留意点について学ぶ。そして、日常生活上の支障が軽減できるよう、生活支援技術Ⅱと連動した生活支援技術を習得する。</p> <p>①運動機能障害に関連する主な病態と症状および具体的な生活障害を説明できるようにする。                  ②運動機能障害のある人への基本的な介護の視点と留意点を説明できるようにする。                  ③運動機能障害のある人への適切な技術を習得できるようにする。                  ④日常生活の拡大を図るために必要な福祉用具の知識を習得できるようにする。</p>						
授業の方法	演習科目であるが講義も併用する。運動機能障害による生活障害を具体的に理解するために、運動機能障害を想定した演習を行う。教員がデモンストレーションを行った後、グループに分かれて練習する。利用者役と介護者役の両方を体験し、援助時の留意点を考えながら基本技術を習得できるようにする。単に手順を覚えることに集中するのではなく、一つ一つの介護の根拠を考えながら実践していく。						
学習成果	L01	運動機能障害と生活障害をむすびつけ、障害の状況に応じた生活支援技術を習得することができる。					
	L02	福祉用具を活用し、日常生活の拡大を図ることができる。					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	実技演習後は振り返りの時間を設け、補足説明を加えながらフィードバックする。小テスト(実技試験)の結果は、評価点やコメントを記入した評価表を返却する。返却時は解説も行う。						
教科書/参考図書	①最新・介護福祉士養成講座 第8巻「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 ②生活支援技術マニュアル						
履修上の留意点やルール等	●演習時は身だしなみを整えること。●自己練習をし、技術の向上に努めること。なお、授業時間以外の介護実習室使用に関しては別途指示する。●教材以外のものは机上に置かない。●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	S 評価は、①授業で使用する教材を準備している。②授業に集中し、必要なことはノートにとっている。③課題の提出期限を守っている。④演習時は身だしなみを整え、積極的に取り組んでいる。	20			
レポート/作品	演習の振り返りレポートを課す。S 評価は、利用者役・介護者役両面の体験から、感想や学びが具体的に記述されていること。		10		
発表					
小テスト	第13回目に片麻痺のある利用者の移乗介助の実技試験を行う。利用者の状況に応じて、麻痺側や安全・安楽に配慮し、根拠に基づいた介護が実施できていること。		20		
試験	運動機能障害に関連する病態、症状、介護上の留意点、片麻痺・対麻痺・四肢麻痺のある利用者の移動介助について理解できている。		50		

その他				
合 計		20	80	

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・演習時の注意など) 移乗・移動に関連した生活支援技術の復習、運動機能障害(肢体不自由)とは【講義】
	事前・事後学習	前期「生活支援技術Ⅱ」で使用したテキストや配布資料、生活支援技術マニュアルの内容を読み返す。授業の内容をノートにまとめる。インターネットで公表されている報告書やデータ等から、肢体不自由者の状況を検索・閲覧する。
2	授業内容	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点① 脳血管障害【講義】
	事前・事後学習	授業の内容をノートにまとめる。脳血管障害の種類と伴いやすい症状を覚える。
3	授業内容	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点② 骨・関節疾患【講義】
	事前・事後学習	テキスト P277～292 を読む。授業の内容をノートにまとめる。骨折の好発部位と骨粗鬆症の予防方法を覚える。
4	授業内容	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点③ 脊髄損傷、脳性麻痺【講義】
	事前・事後学習	テキスト P12～30 を読む。授業の内容をノートにまとめる。脊髄損傷および脳性麻痺の利用者の特性・特徴を踏まえ、日常生活や介護上の留意点を覚える。
5	授業内容	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点④ 筋萎縮性疾患【講義】
	事前・事後学習	テキスト P249～261、P293～306 を読む。授業の内容をノートにまとめる。筋萎縮性側索硬化症(ALS)および筋ジストロフィーの症状と介護上の留意点を覚える。
6	授業内容	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点⑤ パーキンソン病 その1【講義】
	事前・事後学習	テキストP262～276を読む。授業の内容をノートにまとめる。パーキンソン病の4大症状とそれらに関連した症状を覚える。
7	授業内容	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点⑥ パーキンソン病 その2【講義】
	事前・事後学習	テキストP262～276を読む。授業の内容をノートにまとめる。パーキンソン病の利用者の生活上の困りごとを踏まえ、介護上の留意点を覚える。
8	授業内容	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点⑦ 四肢の欠損・切断【講義】
	事前・事後学習	授業の内容をノートにまとめる。四肢を欠損・切断された利用者の介護上の留意点を覚える。
9	授業内容	利用者の状況に応じた生活支援技術① 片麻痺のある利用者への体位変換【演習】
	事前・事後学習	前期「生活支援技術Ⅱ」で学習した内容について、テキストやノートを読み返す。生活支援技術マニュアル P20～24 を読み、手順や根拠、留意点をノートにまとめる。実技の反復練習を行う。
10	授業内容	利用者の状況に応じた生活支援技術② 片麻痺のある利用者への端座位、移乗(一部介助・全介助)【演習】(レポート 提出:第11回目)
	事前・事後学習	生活支援技術マニュアル P84～88 を読み、手順や根拠、留意点をノートにまとめる。練習用チェックリストを確認しながら、実技の反復練習を行う。レポートを作成する。
11	授業内容	利用者の状況に応じた生活支援技術③ 対麻痺・四肢麻痺のある利用者への体位変換、移乗、福祉用具の活用(スライディングボードなど)【演習】
	事前・事後学習	生活支援技術マニュアル P89～94 を読み、手順や根拠、留意点をノートにまとめる。実技の反復練習を行う。

12	<b>授業内容</b>	片麻痺のある利用者への移乗・移動に関する生活支援技術のまとめ【演習】
	<b>事前・事後学習</b>	実技試験に向けて、練習用チェックリストを確認しながら、3回以上、実技を行う。実施後はチェックリストに練習日、自己評価を記入する。
13	<b>授業内容</b>	片麻痺のある利用者への移乗・移動に関する生活支援技術習得の確認・振り返り小テスト【実技試験】
	<b>事前・事後学習</b>	実技の自己評価表を記入する。実技試験を振り返り、不十分だった点やできなかった点を中心に、生活支援技術マニュアルを読み返す。
14	<b>授業内容</b>	運動機能障害に伴う症状と介護上の留意点【講義】
	<b>事前・事後学習</b>	配布資料を読み返す。運動麻痺、知覚障害、言語障害、意識障害、失行・失認について、ポイントをノートにまとめる。
15	<b>授業内容</b>	機能代行と補助機器、福祉用具の意義と活用(移動用リフト) 利用者の状況に応じた生活支援技術④ 視覚に障害のある人の歩行介助【演習】
	<b>事前・事後学習</b>	配布資料を読み返す。移動用リフトの種類、特徴、留意点、導入・選定のポイントをノートにまとめる。介護実習で実践できるよう、実技の反復練習を行う。